

コロラドへ行って得たもの

明見中学校 宮下知歩

派遣団員としてコロラドに行けることが決まった時から、異国の文化を学べるという期待の反面、たくさんの不安がありました。ちゃんと相手の話を聞き取って、自分自身の言葉でしっかり伝えられるか。それでも、まずは派遣団員として自分のできることをできる限りやろうと決めました。

いざアメリカに着き、コロラドの方々と話してみると、優しさと温かさを感じました。最初は聞き取れず何度も聞き返したり、あいづちのみになってしまう場面が多くありました。それを配慮してくれたコロラドの方々は、ゆっくりはつきり話してくれたり、ジェスチャーを使ってくれたりして、コミュニケーションをとることができました。私が話すときに間違った単語や文法を使っていたら言い直してくれました。

コロラドはとても広く、特に私のホストファミリー宅は山の上の方にあつたので、遠くまで美しい景色を見渡せました。気候は日差しが強く、とても乾燥していました。訪れたところには日本にはないようなものがたくさんあり、それぞれの魅力に触れられました。自然や文化など、あの雰囲気はアメリカでしか感じられないものと思いました。

9日間の中で特に印象に残っているのは、ホストファミリーと過ごしたある夜のことです。その日はホストファミリーデーで、日中は他のホストファミリーとハイキングへ行きました。帰ってきて子供達でマリオカートというゲームをし、夕食後には、庭へ出て体を動かすゲームをしました。ゲームの最中、言葉がなくても共通認識のもので通じ合うことができ、とてもうれしかったです。よい結果が出たときは素直に喜び合い、よい対戦をした後にはお互いをたたえ合いました。初めてホストファミリーにとけ込み、家族の一員になれた気がしました。その日まで感じていた、私とホストファミリーの間にあった壁のようなものが、なくなっていくように感じました。

今回の活動を通して、たくさんのことを学びました。自分の限りある言葉で伝えることの難しさや、親元を離れての生活の大変さなどです。特に、「コミュニケーションは言葉だけじゃない」と知ることができたのが一番の収穫でした。

これらの収穫が得られたのは、企画等をしてくれた市役所の方々、応援やアドバイスをくれた家族や親戚、励ましてくれた先生方や友達、ともに頑張ろうと思えた派遣団仲間のおかげです。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。